

「主体的に学習する児童の育成」 ～ 活用する力をはぐくむ授業づくりを通して～

I 研究の内容

1 はじめに

本校はこれまで国語科の研究を深めてきたが、国語科を中心にはぐくんできた思考力・判断力・表現力が他教科の中で生かされているのだろうかという疑問が出てきた。そこで、本年度は算数科に焦点を当て、言語活動をいかに仕組み、活用する力をはぐくむことができるか研究を深めることとした。習得した知識・技能を他教科にも活用できるように、授業の工夫と改善を目指すこれらの研究や取り組みが、活用する力をはぐくみ、主体的に学習する児童を育成することにつながるのではないかと考え、本年度の主題とした。

2 研究の具体的内容と方法

- (1) 算数科の授業において、基礎・基本の知識・技能を習得させ、活用する力を育てるために、学習過程を工夫し改善する。
- (2) 児童の実態を把握し、課題を明確にする。
- (3) 算数科における「活用する力」についての理論研究を行い、共通理解のもとで具体的指導法を探る。
- (4) 低学年・高学年ブロックごとに指導法を研究しそれぞれ年1回の研究授業を行う。
- (5) 「算数的活動」とはどのような活動なのか、どのように仕組みば「活用する力」が育成されるのか研究実践する。
- (6) 一人一実践による授業公開をし、互いに学び合う場を持つ。

3 研究実践

(1) 理論研究

「算数科における活用する力についての理論研究」

小林俊彦先生（峡東教育事務所 指導主事）

(2) 研究授業

ア 低学年ブロック 2年「計算のしかたをくふうしよう」（駒田）

指導・助言 齊藤 功先生（義務教育課 指導主事）

イ 高学年ブロック 6年「立体のかさの表し方を考えよう」（高添）

指導・助言 畠本三夫先生（石和南小学校教頭）

(3) 授業実践（一人一実践）

4年算数「小数のしくみを調べよう」（野田校長）

1年算数「ひきざん」（岡）

3年算数「はしたの大きさの表し方を考えよう」（前島）

5年算数「面積の求め方を考えよう」（野尻）

4年算数「広さを調べよう」（三森）

6年家庭科「楽しい食事をくふうしよう」（市川教頭）

保健集会「姿勢について考えよう」（大間）

II 成果と課題

1 成果

- (1) 研究授業の領域を絞ったため、学習の系統性や子どもの発達段階に応じた指導法のあり方について研究が深まった。
- (2) 算数的活動とは何か、実践とあわせて理論研究をすることができた。
- (3) 算数的活動における言語活動のあり方を実践と理論から学ぶことができた。
- (4) 算数科の学習においては、国語（説明的文章）の表現力だけでなく、図や式、操作等も含め、自分なりにできる様々な方法を活用して表現していくことが大切であり、それら活動が言語表現に生かされていくことがわかった。
- (5) 子どもたちが既習学習（体験）をその後の学習（体験）に生かすことができるようになってきた。

2 課題

- (1) 校内研究のねらい通りに研究を進めているが、本当に「活用する力」に結びついているのか知る方法を探りたい。
- (2) 既習学習を活用することができているが、中にはまだ不十分な子もいるので引き続き指導していきたい。
- (3) 系統を意識した学習が進められるように教師側が意識を持っていく必要があるのではないかな。
- (4) とかく教師は児童に教えすぎてしまうことがある。学習課題に対する児童の関心や意欲を高め、学び合いを深めるための、発問のあり方や発達段階に応じた支援のあり方について、さらに研究を進めたい。
- (5) 言葉による表現が基礎・基本となるが、図や式、操作など様々な表現方法について研究をしていきたい。

III 成果物

- 1 2学年「計算のしかたをくふうしよう」学習指導案及び資料
- 2 6学年「立体のかさの表し方を考えよう」学習指導案及び資料
- 3 授業実践指導案7点

（研究主任 三森 明美）